

**立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)**  
**東日本大震災・復興支援関連研究 (共同研究型)**

**2015年度研究【経過・成果】報告書**

研究代表者	所属部局・職		氏名					
	観光学部・教授		橋本俊哉 印					
研究課題	観光資源の持続的活用による風評被害の克服に関する研究 —福島県北塩原村を事例として—							
研究組織 (研究代表者 ・研究分担者) 2016年3月現在	所属研究機関・部局・職		氏名					
	文教大学 国際学部・教授		海津ゆりえ					
	北海道大学 観光学高等研究センター —大学院観光創造専攻・教授		真板昭夫					
	福島大学 共生システム理工学類 ・教授		黒沢高秀					
研究期間	2013年度 ~		2015年度					
研究経費※ (上段：支出金額) (下段：採択金額)	2013年度		2014年度		2015年度		総計	
	2,679,989	円	2,960,000	円	2,950,000	円	8,589,989	円
	2,680,000	円	2,960,000	円	2,950,000	円	8,590,000	円

※1円単位

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

入込統計資料や新聞記事の分析、福島県および調査対象地である北塩原村の公的機関、観光関連事業者等に対する2回の聞き取り調査によって、風評被害の状況とその推移等を把握した(研究A)。また、文献調査や村民への聞き取り調査、踏査を通じて、村内の大塩地区・北山地区の資源や魅力を発掘し、フェノロジーカレンダーと資源マップ等を作成した(研究B)。その成果をふまえ、両地区において観光者参画実験(モニターツアーと交流会)の企画・実施と評価を行った(研究C)。コミュニティ意識や風評被害に対する認識等の視点から、北塩原村の全世帯に対して質問紙調査を2回実施し、研究期間における住民の意識変化を検証した(研究D)。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 北塩原村 } { 風評被害 } { 宝探し }

## 研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

## 【研究 A : 北塩原村における風評被害の現状分析】

研究 A では、入込統計資料の分析、風評被害に関する新聞報道の内容分析、ならびに公的機関や観光関連事業者等を対象とした聞き取り調査を通じて、福島県および北塩原村における風評被害の現状等を分析した。

入込統計資料の分析では、大震災発生前後の期間における福島県および北塩原村の観光入込統計と教育旅行入込統計の推移を検討した。その結果、総じて大震災発生後の急激な入込数減少とそれ以降の段階的な回復状況が確認された。

風評被害に関する新聞報道の内容分析では、大震災発生後の日本国内における風評被害の状況やその克服に向けた対応策等の推移を検討した。分析対象は、大震災発生後の3年間(2011年3月11日~2014年3月10日)において発行された、読売新聞、日本経済新聞、観光経済新聞の3紙の記事とし、その検索には Web のデータベースを用い、見出しに「風評」の単語を含む記事等を抽出した。記事の内容は「風評被害の発生状況」のほか、風評被害対応策に関するカテゴリーとして、「プラスイメージの訴求」、「マイナスイメージの払拭」、「東電等による損害賠償」、「経済的インセンティブ」、「外部への支援要請」、「復興支援の組織/会合」、「その他」の計8カテゴリーに分類された。3カ月ごとの記事件数の推移をみると、大震災発生後の6カ月間に最も多くの記事が登場し、その後は次第に減少していく傾向にあった。カテゴリー別の割合は、「風評被害の発生状況」、「プラスイメージの訴求」、「マイナスイメージの払拭」、「東電等による損害賠償」が3紙に共通して高かったものの、各カテゴリーの割合やそれが推移する様相は新聞ごとに異なっていた。

2013年の9月と11月に実施された第1回聞き取り調査では、震災直後から現在に至るまでの風評被害状況が把握された。調査対象は21件であり、カテゴリー別に挙げると、「福島県の公的機関」、「北塩原村の公的機関等」、ならびに北塩原村における「観光関連事業者」、「エコツアー業者」、「宿泊業者」であった。得られた聞き取り内容を、「震災発生直後の風評被害状況」、「風評被害克服に向けて施された対策」、「現在の風評被害状況」の観点から時系列順に整理したうえで、調査対象間で比較・分析した。その結果、「風評被害のタイプ」ならびに「風評被害対策のタイプ」が分類されることで風評被害の構造が明らかとなったほか、「放射能汚染に関する福島県民等の意識の隔たり」も見出された。風評被害のタイプは、「被害が顕著なタイプ(長期継続型)」と「被害を受けにくいタイプ(早期回復型)」に大別され、各タイプの具体的特徴が、旅行目的や旅行形態、利用者特性、距離(発地)ごとに整理された。福島県内の関係組織や観光関連事業者等による風評被害対策については、その対象(「旅行一般」あるいは「教育旅行」と目的(「プラスイメージの訴求」あるいは「マイナスイメージの払拭」)の次元によって、「旅行一般-プラスイメージの訴求」、「旅行一般-マイナスイメージの払拭」、「教育旅行-マイナスイメージの払拭」、「教育旅行-プラスイメージの訴求」の4タイプに分類された。さらに、上記の風評被害対策に関わる取り組みを、主に福島県や北塩原村の公的機関が提供する「経済的インセンティブ」や「復興支援組織の立ち上げ」が下支えしている構造も明らかとなった。上記のほか、放射能汚染に関する福島県民等の意識も把握され、福島県内の放射能汚染度および安全性に対する認識や、福島県への教育旅行についての是非の判断、東電補償に伴う観光関連事業者の姿勢等に関して、各々の視点・立場による隔たりが生じていた。

2015年の2月と3月には、前回と同様の調査対象17カ所(同意の得られなかった対象を除く)への追跡調査として、第2回の聞き取りを行った。第1回の調査以降、多くの対象において風評被害からの回復は進み、震災発生前とほぼ同水準にまで大幅に回復している所もあった。一方で、風評被害の影響が残り停滞しているケースも見受けられた。風評被害対策については前回調査時と同様の取り組みを継続している対象が目立っていたものの、新たなイベントや営業努力のほか、公的機関による旅行代金割引制度の導入等も図られていた。福島県民等の意識については、前回調査でも指摘された「放射能汚染に関する意識の隔たり」が依然として存在していたものの、新たに「大震災の忘却・風化」や「(風評被害克服や震災からの復興に関する)前向きな姿勢、明るい見通し」という意識変化を示す証言も得られた。

## 【研究 B : 北塩原村の資源調査】

研究 B では、北塩原村の大塩・北山地区の住民に対する聞き取り調査や住民の案内による現地踏査、ならびに関連文献の収集・分析を通じて、大塩・北山地区に存在している自然・人文資源を掘り起こした。さらに、その成果をもとにして、フェノロジーカレンダー(季節の自然・生活文化の暦)やモニターツアー内で配布するマップ等を作成した。

2014年度は北山地区(6月)、大塩地区(8月)の住民に対する聞き取り調査によって各地区における資源掘り起こしを行った。続く9月には、大塩地区のモニターツアーのコースを踏査してコース上の資源を発掘・整理し、さらにツアーのコンセプトやツアー中に紹介する資源等を検討することを通じて、ツアー内で配布するコースマップを作成した。大塩地区のツアー内で紹介した主な資源カテゴリーは「植物」、「生活・作物」、「歴史」、「眺望」、「湧水等」等であった。

2015年度は5月に北山地区で踏査を実施し、北山漆薬師や北山集落の蔵のまちなみ、水田地帯の眺望等、モニターツアーで訪れるコース上の資源を発掘・整理した。また、北山集落で発掘された蔵を整理することによって、ツアー内で配布する「蔵めぐりマップ」を作成した。9月と11月にも北山地区で聞き取り調査を実施し、同地区の資源を掘り起こすとともに、フェノロジー案やその他の資源発掘調査成果についての内容確認を住民と一緒にを行った。

そのほか、北塩原村の歴史、自然資源(磐梯朝日国立公園、動植物等)、人文資源(磐梯山噴火記念館や柏木城跡、北山漆薬師等の人文観光資源、マタギと木地師の文化、年中行事、農作物等、特産品)について関連文献から整理した。以上の手続きを経て、北山地区および大塩地区で発掘された資源を総合的に整理し、外部の業者に委託することで「北山集落蔵めぐりマップ」と「大塩探訪マップ」を作成した。

## 研究【経過・成果】の概要 つづき

## 【研究 C : モニターツアーの実施と評価】

2014 年度は大塩地区、2015 年度は北山地区を舞台とし、研究チーム、裏磐梯エコツーリズム協会、住民等が協働して、研究 B で発掘された資源リストやフェノロジーを活用しながらモニターツアーを企画・実施した。

2014 年度は、発掘された資源をもとに学生等が検討し、大塩地区の「恵まれた自然環境」と「食の魅力」を活用した、秋の田園風景や里山の魅力、歴史等が満喫できることをツアーのコンセプトに定めるとともに、「うんめえところ、まるごといただきます。里山さ行くべ！大塩探訪」というタイトルを考案した。これに沿って「里山ウォーキング」と昼食を交えた「交流会」から構成されるコースを設定し、ツアーで巡るコースや地点を示すマップを制作した。2015 年度も同様に資源発掘調査の結果をふまえ、北山の「由緒ある歴史」と「おいしい食べ物」を体験し、「北山集落の蔵めぐり」を通して地域の方々との交流を楽しんでもらうことをツアーのコンセプトとし、「れきし・たんぼ・やさい・まちなみ ～歩いて食べて感じてくなんしょ・村の神秘を求めて～」というタイトルが考案された。これに沿って、午前中はアスパラガスの収穫体験と北山漆業師参り、昼食・交流会をはさんで、午後は北山集落の「蔵めぐり」から構成されるコースを設定した。ツアーでは、参加者がガイドの引率のもとでコースを歩き、昼食を兼ねた交流会に参加した。ツアー終了後には、参加者とスタッフに対して、その日のツアーを振り返って評価するアンケートを実施した。

アンケート結果を総合すると、大塩地区の里山ウォーキングコースは、自然資源・人文資源の見どころが豊富に存在する、秋ののどかな里山の魅力を満喫できるコースと評価されていた。地元農産物を活かした交流会の昼食も、品数・ボリュームの双方が高く評価された。北山ツアーについては、蔵の見学やアスパラガスの収穫体験、北山漆業師の住職や蔵の持ち主との交流等が、珍しく希少な体験であるとしてとくに大きく評価されていた。

以上の結果を通じて、大塩・北山地区におけるモニターツアーは、両地区に備わる自然資源・人文資源の魅力を生かす北塩原村住民に（再）認識してもらうために有効であると考えられる。また、域学連携で村内のエコツーリズムに取り組むネットワークが育まれたという社会的成果も指摘できる。今後も村内の資源発掘を継続しながらエコツアーのあり方を探求していくことや、各種メディアを通じて北塩原村の魅力を外へアピールしていくこと等が課題である。

## 【研究 D : 北塩原村住民を対象とする意識調査】

研究 D では、研究プロジェクト期間における北塩原村住民の意識変化を検証することを目的として、プロジェクト初年度の 2013 年度（2014 年 2 月）に第 1 回意識調査を、最終年度の 2015 年度（2016 年 1 月）に第 2 回意識調査を実施した。調査は郵送法による質問紙調査とし、調査ごとに対象者を抽出する「繰り返し調査」を実施した。調査対象は北塩原村における全世帯主であり（第 1 回調査：1087 戸、第 2 回調査：1082 戸）、第 1 回調査では 238 票（21.9%）、第 2 回調査では 162 票（15.0%）の有効回答を得て分析対象とした。

質問紙では、「コミュニティ意識尺度（石盛、2010）」を一部修正して用い、「愛着」、「連帯・積極性」、「自己決定」、「他者依頼」の各因子によって住民意識を把握した。また、「風評被害に対する認識」や「回答者の属性（性別、年齢層、業種、居住地区等）」を尋ねたほか、「北塩原村に対して抱いているイメージ」を SD 法で測定した。第 2 回調査では新たに、「研究プロジェクトへの参加・協力経験」等についても尋ねた。分析では、上記に挙げた尺度得点ごとに、業種（「宿泊業」群、「農林漁業」群、「他業種（製造業、公務員・団体職員、建設業等）」群、「無職・専業主婦」群）および「調査時点（第 1 回調査、第 2 回調査）」を独立変数とする二要因分散分析を行った。

分析の結果、観光への風評被害を受ける宿泊業従事者では、第 1 回調査から約 2 年間を経るなかで、積極的かつ自律的・主体的に村内の地域活動に臨もうとする態度が強化されており、また、風評被害を自らに直接関わる問題としてより重く認識していた。一次産業への風評被害を受ける農林漁業従事者は、村に対する愛着やそこで生活する誇りがその他のグループよりも強く、風評被害の問題を重く認識しており、村に対するイメージも総じてポジティブ、活動的で、力強い傾向を示していた。以上より、宿泊業と農林漁業に従事する住民は、風評被害克服に向けた北塩原村のイメージアップ活動や村内の資源を活用したエコツアー等に際して連携・協力を期待できる主要な層とみなせよう。

続いて、「研究プロジェクトへの参加・協力経験」の有無によって上記と同様の尺度得点を t 検定で比較した。その結果、聞き取り調査に協力した経験のある住民は、それ以外の住民と比べて村に対する愛着が強く、地域活動に対しては積極的・協力的で、風評被害の問題を重く認識していた。その数は限られているものの、大塩・北山地区のモニターツアーやプロジェクトの研究成果の報告会に参加した住民の意識にもほぼ同様の傾向がみられた。以上より、研究プロジェクトに参加・協力することが住民のコミュニティ意識をより積極的・肯定的なものへと変化させ、風評被害への関心を高めるように影響する可能性は示唆されたが、その因果関係を明確化する点に課題が残されている。大震災や風評被害の発生によって損なわれた福島県民・北塩原村住民の心の健康状態を回復させ、経済面のみならず心理面の復興を実現させていく取り組みはなお重要であり、彼らの心理面に着目した調査はこの先も必要とされる。

※この（様式 2）に記入の、経過・成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書（A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式）を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

### ① 雑誌論文

- ・ 橋本俊哉 (立教大学)・海津ゆりえ (文教大学)・相澤孝文 (立教大学)、「東日本大震災における観光の風評被害に関する研究—福島県北塩原村の「風評手控え行動」の分析を通して—」、立教大学観光学部紀要、第 17 号、2015 年、pp.3-12.
- ・ 橋本俊哉 (立教大学)、「観光地の「災害弾力性」試論」、立教大学観光学部紀要、第 18 号、2016 年、pp.90-98.

### ② 図書

- ・ 黒沢高秀 (福島大学)・首藤光太郎 (福島大学)・根本秀一 (福島大学)・山下由美 (福島大学)・猪瀬礼璃菜 (福島大学)・米倉浩司 (東北大学)、「福島県北塩原村の維管束植物リスト」、塘忠顕(編) (福島大学)、福島民報社、「裏磐梯・猪苗代地域の環境学 (付属 CD-ROM)」、2016 年、260 ページ
- ・ 黒沢高秀 (福島大学)・塘忠顕 (福島大学)、「裏磐梯・猪苗代地域の生物多様性とその保全」、塘忠顕(編) (福島大学)、福島民報社、「裏磐梯・猪苗代地域の環境学」、pp.237-258.、2016 年、260 ページ

### ③ シンポジウム・公開講演会等の開催

- ・ 橋本俊哉 (立教大学)、「会津北塩原村における風評被害とその克服に向けて」、第 4 回 CATS 観光創造研究会、2015 年 9 月 19 日、於：北海道大学

### ④ その他

#### 【学会発表】

- ・ 相澤孝文 (立教大学)・橋本俊哉 (立教大学)、「福島県北塩原村における風評被害に関する住民意識の類型化—観光の風評被害克服に向けて—」、第 30 回日本観光研究学会全国大会学術論文集、2015 年 11 月 29 日、pp.325-328.、於：高崎経済大学

#### 【研究報告書】

- ・ 立教大学観光学部橋本研究室、「観光資源の持続的活用による風評被害の克服に関する研究—福島県北塩原村を事例として—」、2016 年、141 ページ

#### 【研究補助者 (学生) による研究発表およびポスター発表】

- ・ 後藤莉香 (立教大学)・菊池有宇 (文教大学)、「エコツーリズムを通じた風評被害の克服—福島県北塩原村を事例として—」、第 5 回全国エコツーリズム学生シンポジウム (主催：NPO 法人日本エコツーリズム協会)、2013 年 11 月 30 日、於：東京大学
- ・ 菊池有宇 (文教大学)・坂田大知 (立教大学)、「北塩原村における観光の風評被害克服に向けた研究」、裏磐梯ビジターセンター第 9 回学生研究発表会 (主催：裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会)、2014 年 3 月 16 日、於：福島県北塩原村
- ・ 坂巻杜登 (立教大学)・山内しおり (文教大学)、「エコツーリズムを通じた風評被害の克服に向けて福島県北塩原村におけるエコツアー『里山さいぐべ!』の実践と評価」、第 6 回全国エコツーリズム学生シンポジウム・ポスター発表 (主催：NPO 法人日本エコツーリズム協会)、2014 年 11 月 29 日、於：東京大学
- ・ 内倉綾香 (立教大学)・瀬脇ひかり (文教大学)、「北塩原村大塩地区におけるエコツアーの実践と評価—風評被害の克服に向けて—」、裏磐梯ビジターセンター第 10 回学生研究発表会・口頭発表 (主催：裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会)、2015 年 3 月 19 日、於：福島県北塩原村
- ・ 小川豪 (立教大学)・関根早耶加 (文教大学)、「風評被害の克服におけるエコツーリズムの意義—福島県北塩原村を舞台としたエコツアーの実践を通じて—」、第 7 回全国エコツーリズム学生シンポジウム (主催：NPO 法人日本エコツーリズム協会)、2015 年 12 月 6 日、於：東京大学
- ・ 伴かおり (文教大学)・宿谷えりな (立教大学)、「域学連携によるエコツアーの実施がもたらす効果と意義—北塩原村の風評被害克服に向けて—」、裏磐梯ビジターセンター第 11 回学生研究発表会・口頭発表 (主催：裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会)、2016 年 3 月 16 日、於：福島県北塩原村